様式１：小学校

令和５年度　岡山市　英語教育改善プラン

目標　「CAN−DOリスト形式」による学習到達目標の設定等を通して、指導と評価の一体化を進めるとともに、小中連携の意識改善及び教員の授業改善を図る。

	１．現状	２．分析	３．施策・事業
改善が進んだ点	①「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標の設定、公表、把握すべての項目において向上した。 ②パフォーマンステストの実施状況が向上した。	①設定、公表、把握における意義の理解を図るため、説明動画を配信したことが、各学校の取組を進めることにつながったと考えられる。 ②岡山市英語教育推進指定校事業の授業公開や講演会を通して、授業づくりの意識改善が見られた。	①「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標の公表及び把握を実施することのイメージや指導と評価の一体化の具体例を示すことで、理解が促進されるようにする。岡山市英語教育推進指定校での実践事例を通して伝達していく。 ②岡山市英語教育推進指定校事業やその他公開授業発表を通して、単元を見通した授業づくりや言語活動の在り方について発信することで、教員の授業改善の促進を図る。
未だ改善が必要な点	❶「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標の公表、把握の項目において目標に達していない。 ❷小中連携の実施状況が昨年度調査より低下している。	❶児童には公表しているが、地域や保護者に対しては公表が十分にできていない学校が否定的な回答をしていると考えられる。 ❷小中連携の状況について、令和４年度から連携の内容の充実を求めたため、一部の学校で厳しい自己評価が行われ、数値が下がったと考えられる。	❶❷ 岡山市英語教育推進指定校事業や各校での公開授業を通して、「CAN−DOリスト形式」による学習到達目標の異校種間での共有を含む小中連携や、指導と評価の一体化の意義等について触れることで教員の意識改善を図る。 また、今年度の発表校が義務教育学校であることから、小中連携の改善を図る。とくに、中学校が小学校の学びをどのように生かしながら指導を行うかに焦点をあて、その重要性を伝える。

様式１：中学校

令和５年度　岡山市　英語教育改善プラン

目標

・生徒の英語力の客観的把握に努めるとともに教員の授業改善を図る。
・教師の授業改善の意識向上を通して、生徒の英語力の向上に繋げる。

１．現状

改善が進んだ点

①英語担当教員の英語力の状況が向上した。

②授業における生徒の英語による言語活動時間の割合が向上した。

未だ改善が必要な点

❶生徒の英語力の状況が目標に達していない。

❷小中連携の実施状況が昨年度調査より低下している。

２．分析

①英語担当教員英語力向上事業をとおして、教員の自己研鑽に対する意識向上を図ることができた。

②岡山市英語教育推進指定校事業の授業公開や講演を通して、授業づくりの意識改善を図ることができた。

❶教員の英語使用状況は充実しているが、生徒自身が英語を話したり書いたりする機会が十分とは言えない。

❶生徒の英語力の把握にばらつきが見られるので、適切な把握に繋がる取組が必要である。

❷令和４年度から連携の内容の充実を求めたため、厳しい自己評価が行われ、数値が下がったと考えられる。

３．施策・事業

①英語担当教員の資格等取得負担金を市で負担することで、教員の各種検定試験の受験意欲の向上を図る。

①ALTとの授業の打ち合わせ時間を活用し、教員英語力の向上を図る。

②岡山市英語教育推進指定校事業やその他公開授業を通して、単元を見通した授業づくりや言語活動の在り方について発信することで、教員の授業改善の促進を図る。

❶中学３年生対象に英検IBAを実施することで、生徒の英語力を客観的に把握するとともに、実態把握に基づく授業改善を図る。

❷岡山市英語教育推進指定校事業や各校での公開授業を通して、小中連携の意義やその方法等について触れることで教員の意識改善を図る。今年度の発表校が義務教育学校であることから、小中連携の視点も含めた事業とする。

様式１：高等学校

令和５年度　岡山市　英語教育改善プラン

目標　外国語教育の充実を図るとともに、異なる国の人や文化を身近に感じる機会を増やし、積極的に世界の人々とつながろうとする意識をもった生徒を育成する。

１．現状

改善が進んだ点

①パフォーマンステストの取組状況に関する数値が向上した。

②英語の授業におけるICT機器の活用状況に関する数値が向上した。

未だ改善が必要な点

❶生徒の英語力の状況が目標に達していない。

２．分析

①「コミュニケーション英語」ではスピーキングテスト、「英語表現」ではライティングテストを実施するかたちで、分けていたが、いずれの科目でも両方実施することとしたため改善した。

②実際に英語を用いたコミュニケーションの機会を、一人一台端末を活用することでより充実させるようになったため向上した。

❶生徒の英語による言語活動のうち、「話すこと」「書くこと」の言語活動が少ない学年が一部見られた。表現領域の言語活動や「聞くこと」「読むこと」と領域統合した言語活動がやや不足しているため、英語力の向上が進みにくいと考える。

３．施策・事業

〇ALTの常駐
- 生徒の英語による言語活動を充実させるため、一斉授業だけでなく、個別にALTとコミュニケーションを図る機会をできるだけ多く確保する。

〇国際交流活動の推進
- 外国語学習を実際のコミュニケーションにつなげていくため、実践の場の機会を設定する。
- オンラインを活用した交流を積極的に取り入れることで、１対１でコミュニケーションを図る機会の充実や、交流の頻度の増加を目指す。

〇言語活動の充実
- 思考力、判断力、表現力等の育成に重点を置いた言語活動を取り入れ、コミュニケーションの目的・場面・状況に応じて習得した知識・技能を活用する力を育成する。
- 国際交流活動等につながる学習となるよう計画したり、交流でうまく伝えられなかったことを次の機会でできるよう修正したりするなど、実践と学習の往還を図る。